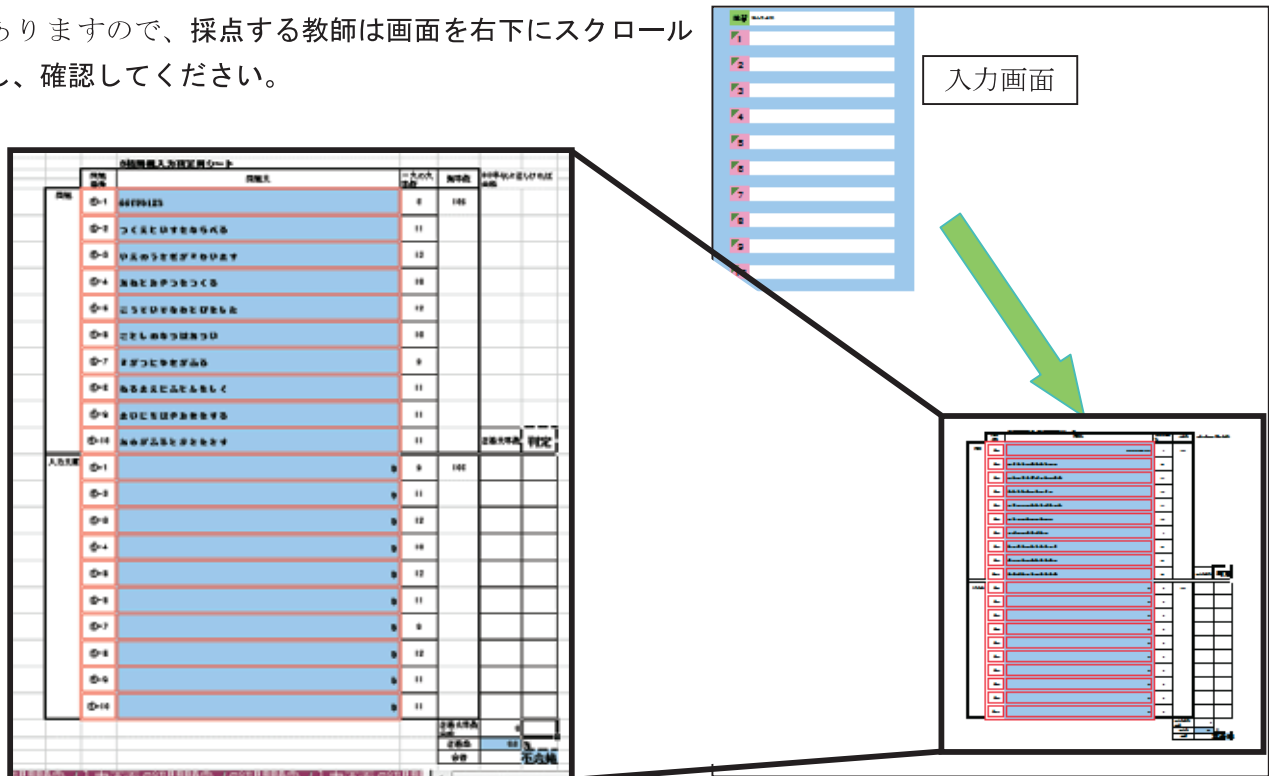


2.採点

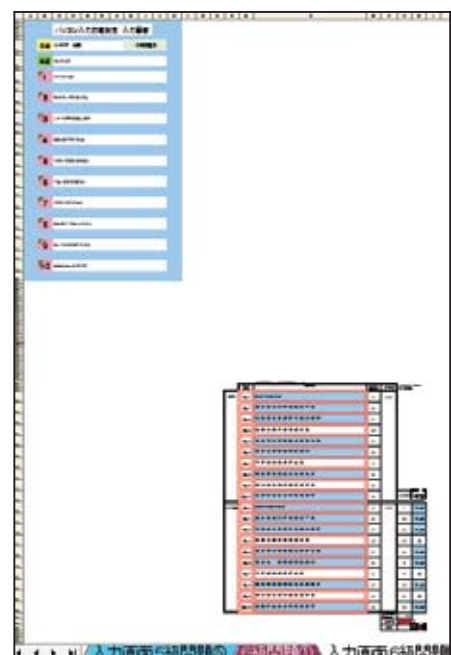
7級までは単語入力のため、画面を見て簡単に採点できます。しかし、6級以上の採点は、各解答について間違いの箇所を探さなければなりません。そのため、解答が完全に一致しているか判定する「問題入力判定用シート」を活用してください。

「問題入力判定用シート」は、各問題の入力画面右下（OからUの61段目から）にあります。技能検定を受ける児童・生徒には見えない位置にありますので、採点する教師は画面を右下にスクロールし、確認してください。



各問題の入力画面に回答を入力すると、正答の場合、「問題入力判定用シート」の塗りつぶしが自動的になくなります。つまり、塗りつぶしが残った回答については、間違い箇所があるということが判断できます。

問題番号	問題文	正解の文字数	判定
問題			
問題1	99199123	8	100
問題2	つくまじきすまじき	11	
問題3	ひまゆきすまじき	12	
問題4	あまじきすまじき	10	
問題5	こまじきすまじき	10	
問題6	こまじきすまじき	10	
問題7	まじきすまじき	8	
問題8	あまじきすまじき	11	
問題9	あまじきすまじき	11	
問題10	あまじきすまじき	11	
入力画面	99199123	8	100
問題2	つくまじきすまじき	11	半一致
問題3	ひまゆきすまじき	12	半一致
問題4	あまじきすまじき	10	0
問題5	こまじきすまじき	10	半一致
問題6	こまじきすまじき	11	半一致
問題7	まじきすまじき	8	0
問題8	あまじきすまじき	11	半一致
問題9	あまじきすまじき	11	0
問題10	あまじきすまじき	11	半一致



次に、不正解の解答をチェックし、それぞれの回答について、次ページからの採点基準に基づき、点数化していきます。

「問題入力判定用シート」の右側点数欄に点数を入力し、技能検定の合否を判定します。

問題		問題文		一文の文字数	総文字数	80%以上正しい場合
①-1		661901233	8	100		
①-2	つくえをひききならべる		11			
①-3	ひえのうさをがまひます		12			
①-4	あねとおつをつくる		10			
①-5	こうてひであねとひました		12			
①-6	ことしのなつはあつひ		10			
①-7	まがつにきをがふる		9			
①-8	あるまゑにふとをむく		11			
①-9	まいにちばあをおををす		11			
①-10	あねがふるるとがさをさす		11			
入力次第		661901233	0	0	7	不一致
②-1	つくえをひききならべる		0		10	不一致
②-2	ひえのうさをがまひます		0		11	不一致
②-3	あねとおつをつくる		0		10	○
②-4	こうてひであねとひました		0		11	不一致
②-5	ことしのなつはあつひ		0		9	不一致
②-6	まがつにきをがふる		0		9	○
②-7	あるまゑにふとをむく		0		10	不一致
②-8	まいにちばあをおををす		0		11	○
②-9	あねがふるるとがさをさす		0		10	不一致
				正答文字数合計	98	
				正答率	122.5%	
				合否		合格

	正答文字数	判定
0	7	不一致
	10	不一致
	11	不一致
	10	○
	11	不一致
	9	不一致
	9	○
	10	不一致
	11	○
	10	不一致
正答文字数合計	98	
正答率	122.5%	
合否		合格

※正答率は、最低問題文字数の80%を基に計算するため、出題文字数が多い場合、100%を超えることがある。

(1) 評価基準 (6級から初段)

- ア 問題文と同じように正しく入力できること。
- イ 各級で設定されている最低文字数の80%以上の正答があること。

	初段	1級	2級	3級
一文の文字数	40文字程度	30文字程度	30文字程度	20文字程度
文字の総数	250~275文字	200~220文字	200~220文字	150~165文字
合格に必要な正しい文字数	200文字	160文字	160文字	120文字

	4級	5級	6級
一文の文字数	20文字程度	15文字程度	15文字程度
文字の総数	150~165文字	100~110文字	100~110文字
合格に必要な正しい文字数	120文字	80文字	80文字

80%
 できれば
合格

(2) 評価の方法

下記の基準により採点をする（減点法）。

例 文： けいたい電話が1台あれば、日本中どこでも話ができる。

項目	減点となる状態	減点方法	【正】	【誤】	減点	解説	
文字の 大きさ	文字の大きさが混在している	混在部分一単語 マイナス1点	電話があれば	電話があれば	1		
全角・半角	全角・半角を間違えている	間違い一箇所 マイナス1点	1台(全角)	1台(半角)	1		
文字の フォント	フォント混在 unnecessary文字装飾 (太字・斜字等)	混在一部分 マイナス1点	電話があれば	電話があれば	1		
脱字	文字の抜け	一文字ごと マイナス1点	話ができる	話できる	1	*「が」落している	
問題文に ない文字等 の入力	誤字	異なった文字の入力 一文字について マイナス1点	日本中どこでも	日本中どこにも	1		
	誤変換	必要のない変換をした 変換が完全ではない	問題文の一文字 についてマイナス 1点	けいたい電話	携帯電話	4	*「けいたい」の 4文字の未入力 が減点対象
				けいたい電話	け板井電話	3	*「いたい」の 未入力が減点
				けいたい電話	け痛い電話	2	*「いた」の部分 が減点
	飛び 文字	余計なスペースを 空けている	一つ当り マイナス1点	けいたい電話	けいたい_電話	1	
	改行	問題文中で改行さ れている	改行一つごとに マイナス1点	けいたい電話	けいたい 電話があれば	1	
	余り 文字	余計な文字の入力	文字数× マイナス1点	話ができる	話しができる	1	
重複入力		文字数× マイナス1点	どこでも	どこどこでも	2		
文字の転倒	文字が入れ替わっ て入力されている	文字数× マイナス1点	日本中どこでも	本日中どこでも	2		
その他	長音「ー」とハイフン「-」、読点「、」とカンマ「,」の扱い * 1問題文中で混在している場合のみ、問題文一つにつきマイナス1点						

3.問題作成について

○問題は下記の基準で作成されています。各学校でも問題を作ってください。



	10級	9級	8級	7級
キーの配列	—	隣り合うキー	ランダム	ランダム
1問当たりの 単語の文字数	1文字	2文字	2～3文字	5文字
ひらがな	あり *漢字変換はしない			
漢字	/			
カタカナ	/			
数字	/			
記号等	/			

	6級	5級	4級	3級
一文の文字数	15文字程度	15文字程度	20文字程度	20文字程度
文字の総数	100～110 文字	100～110 文字	150～165 文字	150～165 文字
ひらがな	長音・撥音・拗音・濁音・半濁音を含む			
漢字	配当学年	/		小1
	文字数	/		小2
	熟語	/		4文字以上
カタカナ	あり			
数字	9～10個	7～8個	5～6個	3～4個
句読点	/		句点のみ	読点、句点ともに含める
記号等	/			



	2級	1級	初段	
一文の文字数	30文字程度	30文字程度	40文字程度	
文字の総数	200～220 文字	200～220 文字	250～275 文字	
ひらがな	長音・撥音・拗音・濁音・半濁音を含む			
漢字	配当学年	小2	小3	
	文字数	34文字以上	34文字以上	42文字以上
	熟語	四字熟語まで		
カタカナ	あり			
数字	3～4個 *漢数字を含む			
句読点	読点、句点ともに含める			
記号等	/			

問題例 : 各学校での問題作成の参考や練習問題としてお使いください。



10級

1		ひ
2		わ


9級

1		ねる
2		すし

8級

1		かさ
2		ていき

7級

1		ふみきり
2	〇〇〇 〇〇	5

※10級から7級までは10問を入力する。

<p>6級</p> <p>①56790123</p> <p>②つくえといすをならべる</p> <p>③いえにうさぎが2わいます</p> <p>④あねとおやつをつくる</p> <p>⑤こういでなわとびをした</p> <p>⑥ことしのなつはあつい</p> <p>⑦2がつにゆきがふる</p> <p>⑧ねるまえにふとんをしく</p> <p>⑨まいにちはやおきをする</p> <p>⑩あめがふるとかさをさす</p>

<p>5級</p> <p>①くつのひもをむすぶ</p> <p>②プールでおよぐ</p> <p>③しゃかいの本をよむ</p> <p>④6月はあめがよくふる</p> <p>⑤ドーナツを3こたべる</p> <p>⑥今日のげこうは2じ45ふんです</p> <p>⑦でんしゃにのってとおいでかける</p> <p>⑧上ばきをブラシであらう</p> <p>⑨かぞくでギョーザを50こつくった</p>
--

<p>4級</p> <p>①父と兄のたんじょう日は9月です。</p> <p>②ポテトサラダにこしょうを入れる。</p> <p>③木村さんとわたしでまちあわせをする。</p> <p>④なつ休みにうち上げ花火を見ました。</p> <p>⑤きょうの雨のかくりつは80パーセントだ。</p> <p>⑥山の空気はひんやりしてすがすがしい。</p> <p>⑦きょうしつに先生が2人います。</p> <p>⑧学校の花だんに朝がおがさいている。</p> <p>⑨しらない人についていかない。</p>

3 級

- ①電車とバスをのりついで、おばあちゃんの家に行く。
- ②24センチのサンダルを1足買った。
- ③北海道にすむ姉に手紙を書いた。
- ④電車とバスをつかって、お父さんと出かけた。
- ⑤小鳥が2羽、公園の木に止まっている。
- ⑥母の声は、高くて大きい。
- ⑦外国にむけて、船が出て行った。
- ⑧青と赤の紙に三角形の線を引く。
- ⑨虫にさされて、手がかゆい。

2 級

- ①外出先ではいそがしくて、一ども電話をかける時間がありません。
- ②おきなわから上京したおじの話を書いて思わずわらってしまった。
- ③画数の多いかん字はおぼえにくいので、なんども読みました。
- ④理科のテストで百点をとったことを友だちから教わりました。
- ⑤校門の前にある草原の虫の鳴き声を、6時から、耳をすまして聞いている。
- ⑥公園でしばらくぶりに、なかよしの友だちに出会ったので、電話番号を教えました。
- ⑦火曜日、お母さんは弟と電話でたくさんお話をしました。

1 級

- ①引力を発見した人について、先生のしつもんには短い文を作り答えた。
- ②母が父と、同じ様にぼくの意見に反対する理由を教えてください。
- ③マイカーで出発する時間になったが、思いがけず問題が生じました。
- ④手にした新聞には、3ページに「目は口ほどに物を言う」とありました。
- ⑤その人物の登場で、100をこえる国々で計画され、使用されています。
- ⑥島で拾った使い古した地図には、字を消した所が何百もあった。
- ⑦秋が深まり、次から次へと木々がこうようする場所で絵をかき始めた。

初段

- ①ねつが高い時は、ほかの品物といっしょにデパートで買った、氷まくらで頭をひやした。
- ②このごろクラスで、先生といっしょに長いなわを使ってとぶ遊びに人気がある。
- ③図書館でいっぱいの本から「回転木馬」という童話の本など、10さつをかりた。
- ④今日は、ぼくが一階のそうじ当番だったが、他の活動のため友だちに交代してもらった。
- ⑤この夏は、苦手なクロールで25メートル泳げるようにお父さんとがんばる。
- ⑥鳴く虫は、まわりの温度に関係があり、暑すぎても寒すぎても活動がにぶることがわかった。
- ⑦田植えのシーズンがやってくると、農家ではたくさんの育てたイネの苗を植える。

4. パソコン技能検定部会の取組

(1) 昨年度までの経緯

知的障害特別支援学校の児童・生徒を対象としたパソコン技能検定を行うために、既存のパソコン検定基準より非常に簡易な段階から実施できる、文字入力技能検定を開発しました。また、検定基準も非常に細かくして「スモールステップ」による問題作成基準を作成し、この検定の最上位である「初段」に到達することによって、既存の検定や認定にチャレンジできるようになっています。

(2) 今年度の取組

ア 実施形態についての検討

都立特別支援学校では、ICT機器の配備により、同一のコンピュータ機器が導入されたため、各学校単位でパソコン入力技能検定を実施することとしました。そのため、検定の進め方や採点基準・方法もマニュアル化しました。

イ 具体的な検定の実施

開発した問題作成基準や採点方法の改善とともに、各校でパソコン入力技能検定を試行しました。試行は、パソコン技能検定分科会委員の所属する学校だけでなく、他校にも依頼して実施しました。技能検定を試行した学校からアンケートを回収し、分析しました。

ウ 実施各校のアンケート結果

アンケートでは、以下のような意見が挙げられました。

- ・漢字のみで入力できる単語により問題を作成する方がよい。
- ・実施する担当教員数について検討が必要である。
- ・単語や平仮名だけの入力で級認定する意図が伝わりきれていない。
- ・効率的に採点できるシステムの開発が必要である。
- ・既存の検定に対応できない特別支援学校の児童・生徒にとって適切な内容である。
- ・各級の問題作成基準に沿った問題となっているか、検討を重ねる必要がある。

(3) 今後の課題

各級5種類の問題を作成したが、更に問題数を増やす必要があります。当面、この問題数で検定を継続して実施しながら、問題作成基準に沿った各校での問題作成が必要不可欠です。

採点を簡易にするために「問題入力判定用シート」の作成は有効でしたが、マクロやプログラミング、採点が完全自動化できるようなシステムを作り、技能検定がより効率的に実施ができることが必要です。

今後は、パソコンやインターネットなどの情報通信技術を活用した学習システムであり、児童・生徒の自主的な操作が可能であるeラーニングシステムの活用も検討が必要です。

